

2011年2月23日 新しいコミュニティー「一志会」の第2回会合が開催されました。



「一志会」は、閉塞感が覆われた日本社会を活力あるものにするためには他人任せにせず、一人一人が「公の精神」をもって積極的に社会との関わりを持っていくことが必要だ、との認識のもとに、昨年12月に発足した限定メンバーによる新しい形の”コミュニティー”です。ここには、一柳

の生き方に賛同した主に大企業の経営者が各分野から参加されています。

第2回の会合では、本会の後見役である中川勝弘特別顧問(国際経済研究所理事長、元トヨタ自動車常務、専務、副社長、副会長歴任、元経済産業省通商産業審議官)とプロデューサーとして幅広くご活躍されている残間里江子氏をゲストとしてお招きし、卓話を頂きました。



中川氏からは、トヨタでの生産から販売、海外企画まで手がけられた経験をもとに「グローバルゼーションを考える」と題して、日本的経営と外資的経営の違い、グローバル・スタンダードと日本標準などを具体例で話され、眞の国際化とは受け身で相手に合わせるのではなく、主体的に〈内側からの〉国際化が必要であることを話され、メンバーはメモを取るなど、熱心に聞き入っていました。



また、残間氏は、「魅力ある経営者と社会との関わり」とのテーマで、ご自分が若い頃、田中角栄氏に単独独占インタビューをしたときのエピソードから今日まで数多くの経営者などとの交流を通じて持たれた人間観、さらに最近話題になっている「social」という概念とご自身分が2年前に立ち上げられた”日本に新しい大人を作る会員制ネットワーク「クラブ・ウィルビー」”の活動を照らし合わ

せながら、随所にユーモアを交えて話され、笑い大きな関心を呼びました。





この後は、メンバーによるショートスピーチを挟みながら交流タイムとなりましたが、2回目ということでメンバー間の一体観が高まり、ゲストも交えた話し合いの輪がいくつもでき、終了時間が延びるほどの活気のある会合となりました。